

平成17年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号 43

教 育 目 標	<p>教育活動のあらゆる場を通して、調和のとれた人間性豊かな工業技術者を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 よい生活習慣と主体的学習態度を育てる。 2 技術のセンスと感性を磨き、創造力豊かな工業技術者を育てる。 3 特別活動を重視し、豊かな人間性とたくましい実践力を育てる。
---------	---

領 域	学校経営
-----	------

重 点	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域社会との連携を深め、環境学習やボランティア活動・地域行事への参加を推進し、「開かれた学校づくり」に努める。 ・教育活動のあらゆる場を通して、調和のとれた人間性豊かな工業技術者の育成に努める。 ・不慮の事故等に対する危機管理体制を確立し、生徒の安全確保に努める。
-----	--

具 体 的 な 指 導 項 目	評 価	現 状 ・ 実 践 内 容 ・ 成 果 等
-----------------	-----	-----------------------

保護者・地域・小中学校等との連携の強化	1 2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を今年度も公開で行い、保護者をはじめ多くの来校者に日頃の学習成果を発表できた。PTA役員も食物バザーで参加された。また、地区懇談会を開き、学校説明や意見交換を行い家庭と学校の相互理解を深めた。さらに、PTA役員の協力のもと交通安全指導、面接指導を実施し、生徒理解の機会とした。 ・花フェスタ、可児市環境フェスタや地元公民館祭りに協力し、作品や実演コーナーを出展したり、学習成果を発表した。また、可児市主催の可児川清掃に多くの生徒が意欲的に参加した。 ・本校の施設・設備を活用し、次のような体験学習会を行い、交流を深めた。小中学生対象のロボット製作講習会、小中学校教員対象のリモコンカー製作講習会、小中学生や地域住民対象のサタデースクール(ものづくり教室)、東可児中学校と環境学習の協働体験。 ・課題研究発表会に企業・中学校・保護者を招き、一年間の成果を発表した。また、可児工業団地との懇談会を持ち、採用の情報や企業の実情などを把握した。
生徒が主体的に関わり責任をもって行動できる機会の充実	1 2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>に関わる行事において、生徒が主役になって実技指導、説明、発表、実演、進行を行うことで自信をつけ、コミュニケーション能力や学習意欲の向上を図ることができた。</u> ・各種コンテスト、イベント等への挑戦を促し、目標と課題をもって主体的に取り組ませ、次のような成果を収めた。ソーラーカーレース鈴鹿で全国9位、ものづくりコンテスト(木

<p>工業人としての望ましい資 質と態度の育成</p> <p>安全管理</p>	<p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 ③ 4 5</p>	<p>材加工、橋梁模型製作)東海大会に出場、A I Tサイエンス大賞ものづくり部門で優秀賞、県小中高ロボットA I部門で優勝、県産業教育フェアのアイデアロボット競技大会で準優勝、愛知万博岐阜県の日で二足歩行ロボット実演、A I Tサイエンス大賞国際交流大会で英語による研究発表、マイタウンマップコンクールで県知事賞など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も継続して「遅刻0週間」や「爽やかな挨拶運動」を職員・生徒が一丸となって取り組み、遅刻の減少傾向が定着し、日常的に挨拶ができる者が増えた。 ・望ましい職業観や勤労観を育成するため、1年生で地元企業人による講話、2年生でインターンシップ(3~5日間)、3年生で地元企業見学を実施し、その他卒業生と語る会や保護者による講話も実施した。 ・高度な検定や資格の取得への挑戦を奨励して、学習意欲を喚起し、目標をもって取り組みませた。朝学習や放課後の補習によって支援し、合格率が上がった。 ・ものづくりの技術・技能の向上を目指し、実習内容を工夫した。放課後に講習会を開いたり、外部講師による技術指導を受ける科もあった。また、教員の技量を高めるため、外部の指導法研修会や実技講習会に参加したり、校内で工業教育を考える研修会や教員同士の技術・技能交換会を行った。 ・避難訓練、職員・生徒の緊急連絡訓練や防災設備に関わる実地研修を行い、安全意識・危機管理意識の高揚に努めた。また、防災対策マニュアルの見直しを図った。 ・各実習室に「安全第一」「整理整頓」の看板を設置し、安全作業意識の向上を図った。
<p>総 合 評 価</p> <p>1 2 3 ④ 5</p>		
<p>総 括 ・ 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域社会との連携を密にし、本校の施設・設備を活用した体験学習を実施したり、各種の地域行事に積極的に参加したりして、工業高校としての教育力を還元し、地域から信頼される学校づくりに努めていく。 ・学校内外の行事やコンテストなど、生徒が主体的に関わり責任をもって行動できる機会を多くし、自主的・主体的に取り組む態度や表現力の育成するとともに、社会の一員としての自覚と誇りをもって地域社会に貢献できる生徒を育てていく。 ・生徒一人一人のニーズに応えるとともに、確かな学力、豊かな人間性や逞しい実践力をもった工業人を育てる教育課程の編成を工夫していく。 ・指導方法の工夫・改善を図るとともに、評価規準や評価方法を明確に示し、目標と課題をもたせて主体的に授業や資格取得に取り組ませていく。 ・学校改革、授業改善のため、学校内外で研修に努め、教員の力量を高めていく。 ・日常及び災害時の安全確保のため、危機管理の体制やマニュアルの整備を図っていく。 	

平成17年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	43
------	----

領 域	研修・学習指導					
重点	<ul style="list-style-type: none"> ・研修：教師としての資質・能力を磨き、教育改革に向けた組織作りと実践に努める。 ・学習指導：基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成を目指す。 					
具 体 的 な 指 導 項 目	評 価					現 状 ・ 実 践 内 容 ・ 成 果 等
研修 学校課題や今日的な課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを組織的・計画的に実践する。 より実質的・実践的な職員の研修を実践する。	1	2	3	4	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年分のシラバスを完成させることができた。作成に当たり、評価のあり方や評価方法について、教科(学科)を超えた意見交換・情報交流を深めることができた。 ・各教科・科目の指導内容や方法について、シラバスに示すことを契機に、教科担任間の意思の疎通を図ることができた。
学習指導 具体的な到達目標と評価規準を示し、指導内容の焦点化と精選化を図る。 生徒の興味・関心を喚起し、成就感や達成感が得られるよう、指導方法を工夫するなど、わかる授業・魅力ある授業作りに努める。 個々の生徒の学習過程を大切に、適切な評価方法を工夫するなど、個を生かした指導に努める。 学習する意義や目的を自覚し、意欲的に取り組むことができるよう、全校体制による授業改善を進める。	1	2	3	④	5	
生徒の興味・関心を喚起し、成就感や達成感が得られるよう、指導方法を工夫するなど、わかる授業・魅力ある授業作りに努める。	1	2	3	④	5	
個々の生徒の学習過程を大切に、適切な評価方法を工夫するなど、個を生かした指導に努める。	1	2	3	④	5	
学習する意義や目的を自覚し、意欲的に取り組むことができるよう、全校体制による授業改善を進める。	1	2	3	④	5	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>シラバスにより、到達目標・学習計画・学習活動のねらい・評価の観点と評価方法などを示した。</u> ・生徒による授業評価を全校一斉に行った。質問のうち、統一項目については集計をし、職員研修会の資料とした。 ・生徒による授業評価を参考に、「<u>わかる授業</u>」「<u>興味を持てる授業</u>」作りに取り組んだ。 ・<u>ペーパーテスト以外の評価を積極的に取り入れるよう、評価方法の大幅な改善を進めた。</u>
総合評価 1 2 3 ④ 5	1	2	3	④	5	
総括・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度から、「評価規準」「評価方法」について校内職員研修会を行い、共通理解が図れるよう取り組んできた。このことを受けて、平成17年度は、本校統一様式による「シラバス」作りを行った。「シラバス」では、科目の到達目標や年間の学習計画の他、「学習指導要領」で示されている観点別評価を各科目の性格にそって具体的に示した。また、評価方法を明らかにすることは、生徒の学習意欲の喚起に結びついた。 ・生徒による授業評価では、一斉に時期をそろえ、共通質問項目を設けて実施するのは、今年度が最初であった。学年別・科目別に集計を行い、職員研修会の資料とした。これをもとに授業改善に取り組んだ。今後も質問項目を検討しつつ継続させていきたい。 					

平成17年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	43
------	----

領 域	生徒指導					
重 点	・「人間としての生き方なり方」を学校教育の全領域に作用させ、自己教育力を高める。					
具 体 的 な 指 導 項 目	評 価					現 状 ・ 実 践 内 容 ・ 成 果 等
<p>「時間のけじめ指導」 遅刻0週間キャンペーン（毎月1回実施）を年間を通して実施。</p>	1	2	3	4	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も遅刻0週間キャンペーンの継続指導を実施した。クラスあたりの1日平均遅刻数は0.3回であり基本的生活習慣の再構築に効果が得られた。特に問題行動の減少や保健室の利用回数の減少、全校集会などでシナジー効果が現れた。また、保護者からも「朝食をとるようになった。」「家族の会話が増えた。」などの意見が得られた。
<p>「公私のけじめ指導」 爽やかな挨拶キャンペーンを年間を通して実施。</p>	1	2	3	4	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝校門で爽やかな挨拶キャンペーンを展開した。（生徒会執行部・MSリーダーズ・職員）結果、昨年度よりも定着し、地域住民、外来者、保護者から評価を得た。また各学年でポスター作成や懸垂幕の掲揚など、具体的に取り組みを設定したことも成果に繋がったように思われる。
<p>「身だしなみ指導」 制服着こなしセミナーを実施。</p>	1	2	3	④	5	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の製造元デザイナー・一般会社員（本校卒業生）を招いて、制服着こなしセミナーを実施した。学校の顔としての制服、季節に応じた着こなし、公私の切り替えなどをテーマに話してもらった。教員による指導だけでは一方通行になりがちであるが、専門家や卒業生の意見は新鮮味があり以後、端正な着こなしができるようになってきた。
<p>MSリーダーズ活動の支援 生徒の自主的活動を支援。</p>	1	2	3	4	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の活動は主に校内での活動が多かったが、今年度は継続、進出、創造を目的に掲げ、活動も地域社会へと範囲が広がり、自主的に可児市の社会福祉活動に参画するなど、中身の濃い充実したものとなり、中部地区ボランティアスピリット賞を受賞するまでにいった。
<p>教育相談の充実（生徒の居場所の確保）</p>	1	2	③	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を捉えて適切な生徒理解に努めるとともに、「学校での居場所の確保」を基本に、積極的な教育相談を実施した。
<p>不審者対策</p>	1	2	③	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯ブザー携帯を奨励し下校時の時間帯・人通りの多い通学路の選択などを指導した。また、正面玄関に防犯カメラを設置した。
<p>月1回（年間5回）の交通マナー指導および授業参観</p>	1	2	3	④	5	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAクラス役員、職員、MSリーダーズが参加して「交通マナー指導」「挨拶運動」を

		実施し、その後反省会、授業参観という流れで行った。保護者からは「服装が良くなった。」「気持ちの良い挨拶をくれた。」「登校時間が早くなった」「交通ルールを指導してほしい」などの意見が寄せられた。
	総合評価 1 2 3 4 ⑤	
総括・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間のけじめ指導」の一環として、全校で取り組んだ「遅刻0週間キャンペーン」は本校において大きな効果が得られるとともに、他のいろいろな面で相乗効果となって現れてきたように思われる。今後継続指導にとどまらずエクステンション指導となるよう創意工夫していきたい。今後の課題を「遅刻0週間」「遅刻0習慣」への移行期間と捉えている。 ・また、生徒一人一人が自主的に授業に取り組み学習成果を上げられるように、さらなる授業規律の確立に努めていきたい。 ・教育相談においては、積極的教育相談をとおして、「自己教育力の向上」「自己存在感の承認」「目的意識の啓発」「受容と共感」などの諸能力を育むよう「生徒の居場所を学校に」をスローガンに支援していきたい。 	

平成17年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

43

領 域	進路指導						
重点	・自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるよう、ガイダンス機能を充実する。						
具体的な指導項目	評 価					現状・実践内容・成果等	
就職希望者に向けての援助	1	2	3	④	5	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実（一人2回）、受験前の企業見学の感想を志望動機に反映させたこと、先輩の受験報告書を研究し試験対策を練らせたこと等の効果があり、不合格者が半減した。 ・面接指導の実施、小論文指導、基礎学力の補充等により、AO入試での合格者が増加した。 ・夏季休業中に学校および保護者の斡旋の企業で全員実施ができ、職場への巡回指導も毎日行った。 ・生徒対象の進路ガイダンスを保護者にも開放、保護者対象の大学・専門学校見学会、「進路だより」の発行等により、情報の提供ができた。 ・「進路だより」を全生徒・職員に配布し、共有化を図ったが、発行回数が少なかった。 ・地元企業見学(3年生)、企業人の講話(1年生)、インターンシップ(2年生)等の実施により勤労観・職業観の育成が図れた。 ・教務との連携により基礎学力の向上を図り、生徒指導部との連携により挨拶の励行、遅刻の防止等、社会人として必要な生活習慣の育成に努めた。 	
進学希望者に向けての援助	1	2	3	④	5		
インターンシップの全員実施	1	2	3	④	5		
保護者との連携	1	2	③	4	5		
進路情報の共有化	1	②	3	4	5		
地域・企業との連携による、勤労観・職業観の育成	1	2	3	④	5		
基本的生活習慣の向上	1	2	3	④	5		
		総 合 評 価 1 2 3 ④ 5					
総括・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校も落ち着いており、教務・生徒指導部との連携も図られていることが、就職・進学指導の好結果に反映した。 ・今後ともキャリア教育の充実に努め、生徒一人一人の能力・適性を把握し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるようなガイダンス機能を低学年から考えていかなければならない。 ・今後、県内への就職を推進するため、中小の企業の事業内容等を生徒に伝えていく方法を検討していきたい。 ・インターンシップの時期や方法についても改善していく必要を感じている。 						

平成17年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	43
------	----

領 域	特別活動			
重 点	・体験的な活動を通して豊かな人間性と生きる力を育み、積極的に活動する実践的態度の育成に努める。			
具 体 的 な 指 導 項 目	評 価	現 状 ・ 実 践 内 容 ・ 成 果 等		
生徒会行事	1 2 3 (4) 5	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動するためには、集団の秩序が確保されることが必要である。生徒会行事を生徒それぞれの個性を生かしながら、生徒の自発的・自主的な活動として取り組ませ、責任遂行の喜びを味わわせ、自信をもたせ、生活に張りを与えて、向上できるように努めている。活動が体験的に集団行動における規律的な態度を育てるよい機会となっている。 		
ホームルーム活動	1 2 (3) 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動の重要性を認識し、公開LHRの事前準備のための情報提供の充実に努め、実践交流を通してホームルーム活動の活性化を図っている。 		
部活動	1 2 3 (4) 5	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の日の位置付けを再度確認して、教師と生徒が部活動に専念できる体制づくりを検討している。 ・クラス減を見据えて、部活動の統廃合案の検討を進めている。 ・PTA部活動委員会と連携して、部活動状況を理解してもらう見学会を実施している。 		
ボランティア活動	1 2 3 4 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域と密接な関係を取り、地域のボランティア活動に積極的に参加している。(校外美化活動の継続、可児市福祉協力校としての事業推進、MSリーダーズのボランティア活動の支援)</u> 		
		総 合 評 価		
		1 2 3 (4) 5		
総 括 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の重要なことは、実際の生活経験による学習を通して全人的な人間形成を図ることである。 ・また、生徒一人一人のよさや可能性を生かして、自らを律しつつ他人と協調できる豊かな人間性や社会性などや「生きる力」を育成することでもある。 ・生徒が自己の活動や生き方をしっかり振り返り、新たな目標や課題をもてるように、活動の成果だけでなく活動の過程における生徒の努力や意欲等を積極的に取り上げて、生徒のよさと可能性を多面的・総合的に考えていきたい。 			